

## 今月のトピックス 「カンキツかいよう病について」

本病は各種のかんきつ類に発生する細菌性の病気です。温州みかんは比較的かかりにくいですが、レモン、ネーブル類、カラといった品種では、しっかりとした対策が必要です。

各種かんきつ品種のかいよう病に対する感受性

感受性	品種名
高	レモン、ネーブル類、カラ
中	甘夏類、セミノール、はるみ、不知火、せとか
低	温州みかん、ユズ

三重県では近年発生は少ない傾向です。春に強風を伴う雨があり、台風の影響が多かった平成 14 年には発生が多く見られました。



越冬病斑

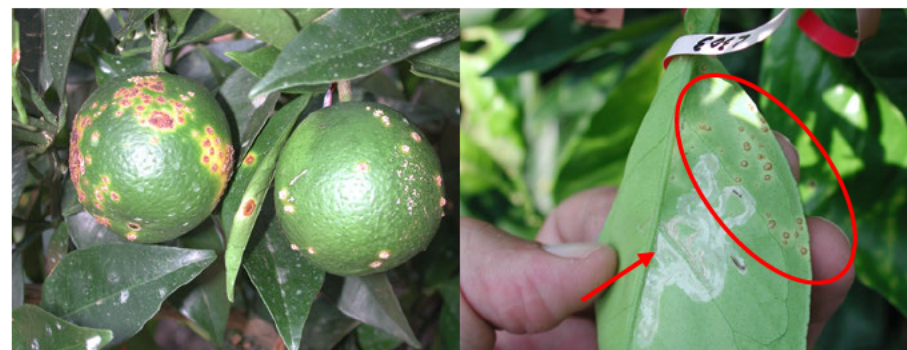
新葉に多発した初期病斑

### ◆被害の様子◆

病斑部は始め白色の小さなカサブタ状ですが、後に拡大して褐色の大きな病斑になります。被害が激しいときには、枝にも病斑が発生し、葉の病斑と共に次年の発生源になります。

### ◆伝染経路と発病条件◆

病原菌は葉や枝の病斑部で越冬しています。本病は、風雨によって、傷や気孔から組織内に病原菌が侵入して発病します。春に温度が高く、強風を伴った降雨があると、急激に発生が拡大し、春芽や幼果実で発生することがあります。また、9～10月頃の台風来襲により、夏秋梢や果実で発生、激発することがあります。夏芽、秋芽にミカンハモグリガの被害があると、発病しやすいです。



激発した果実病斑（ネーブル） ミカンハモグリガ（矢印）の被害と病斑

### ◆防除のポイント◆

- (1) 発病しやすい品種では、発芽前の銅剤による防除を必ず実施します。
- (2) 大雨や台風、長雨が予想される場合は、予防散布を実施します。また、感染しやすい品種では、天候が回復しだい再度薬剤を散布します。
- (3) 病斑がある葉や枝などは発生源となるので、剪定時などに切除して、粉碎等して処理します。
- (4) 感受性の高い品種を栽培する場合、生け垣、ネットなどの恒常的な防風対策を行います。
- (5) 苗木、窒素過多の樹は、発病しやすいので、特に注意が必要です。